令和２年度入学者選抜学力検査問題　後期日程

小論文（国際学類）　正解・解答例

Ⅰ

問１

「筆者の言うアイデンティティの「部族的」な概念とはなにか，300 字以内の日本語で説明しなさい」：

アイデンティティは数多くの帰属で作られており，人はアイデンティティをひとつの全体として生きている。しかし人はいちばん攻撃にさらされる帰属にアイデンティティを見出す傾向がある。そういう傾向を持つ者たちがコミュニティを作って他者を攻撃することになると，過激な発言でその集団の傷を癒す煽（せん）動者が現れ，アイデンティティの守護者として認められるようになってしまう。このようなアイデンティティのとらえ方は古い考え方であるが習慣から，想像力の欠如から，また諦めから人は手放すことができない。そして人に極端な手段を取らせ，暴力に加担させてしまう。このようなとらえ方を筆者は「部族的」と呼んでいる。　（291 字）

問２

アイデンティティを追求することには、自分が今具体的に何になろうとするかを問うことと遠い将来どのような生き方を志向するかを問うことの二つがあると考える。社会内に既存の職業、地位につくことと、職業、収入への関心とは別の観点から長期的に有意義な人生を模索していくことは、基本的な自由を与えられた現代社会の中の人間として実践するべきアイデンティティ追求であると言える。この未来への歩みの中でどうしても、自分は男性であり女性ではないということ、〇〇人として生まれ〇〇人以外のものではないということ、〇〇語を母語としそれを使い続けながら〇〇国の教育体制のなかでいくつかの言語を習得したがその数は限られていること等々が意識される。それらはたしかに自分の未来の可能性を制限する限界である。人はなんでも望みのものになれるわけではない。だがその限界は未来のアイデンティティ形成に資するものとなることも強く感じられる。自分は〇〇人であるという意識は〇〇国と呼ばれるものを知り、その文化や富を守り、成長させる意欲を、また〇〇国が持つ弱点と見えるものを自分が補おうとする意欲を生み、社会にとって有意義なアイデンティティ追求に繋がるのである。他方自分はアイデンティティ追求には望ましくない形もたしかにあるのを感じる。それは特に他の人のアイデンティティ追求を阻害し、中断させてしまうようなアイデンティティ追求である。本試験の問題文の筆者が指摘するような被害者意識に基づいた狭小なアイデンティティ追求が他の人を傷め、殺すことのできる身体的暴力性、武力と結びつくときの害は誰の目にも明らかだが、自分の追求するアイデンティティが正しく優れたものだという意識が他の人のそれを否定し貶（おとし）めようとするとき、それは全て危険なものと言える。個人のアイデンティティ追求は、人類全体のアイデンティティ追求と調和すべきものなのである。(786 字)

II

不平等に関する考え方として、「分類別不平等」というものがある。それは人々がどのグループに属しているかによって個人を分類するもので、社会ではきわめて強い影響力を有する。動物界同様、人間社会には性別という大きな区分がある。しかし生物学上の分類つまり「性別」という分類よりは、「ジェンダー」という社会的な分類を用いる方が有用である。

男女間の不平等は社会に浸透している。世界のほとんどで女性の地位は低く、そして賃金は安い。家事はその多くが女性の仕事である。経済学的に言えば、家が有する富を男女共に享受するため、女性の方が不利であると明言するのは実は難しい。だが、米国では男性が 1 ドル稼ぐ場合に女性が稼ぐのは 77 セントである。今なお女性が「女性化された」職業に就く傾向があり、これらの職業は地位が低く賃金も安いのである。「地位の高い」職業や民間企業トップへの障壁は低下してはいるが、米国ではそれらに就く女性の割合は今なお低い。地位が低いとされる製造業で働くのは女性であるケースが世界中で多々みられる。女性の解放は今なお最も難しく、いつの時代にもある社会的、経済的課題なのである。

分類別不平等は全ての社会に存在し消えることはない。だが時が経つにつれその性質は変化しうる。富は一部の特権階級に集中しているか？あるいは緩やかな格差はあるにせよ概して平等な社会と言えるか？後者はなお問題ではあるが、そうでない場合より問題はずっと小さい。

分類別不平等の深刻さは二つの要因で決まる。一つは社会におけるグループ間の構造の在り方である。もう一つは属する所得グループ、つまり相対的なグループの位置関係である。ゆえにこれらに対するアプローチも二つ存在する。前者に関しては市民的権利や積極的差別是正政策など社会的弱者をターゲットとする様々な政策がある。ただしそれを真に必要とする人々には届かないなど、当初の意図とは異なる結果となることも多い。後者に関しては最低賃金制や各種社会保険などがある。これらは最下層周辺にあるストレスを緩和し、階層の流動化をもたらす。両方とも、より公正で公平な、より良い社会へ向けて重要な役割を担うものである。（900 字）